

ひびき

教育目標「なかよく かしくく たくましく」
<めざす姿>認め合い 自分で考え チャレンジする子
多治見市立共栄小学校 R7.12.26

給食の残菜を減らす取組にチャレンジ!

—みんなの頑張りが数値に成果としてあらわれています—

共栄小校長 加藤 隆史

本年度、本校では「残菜を減らす」ための様々な取組を行い、その成果が着実に数値として表れています。右の表をみてもらうと分かるように、昨年度に比べて残菜の量が大きく減少しています。子どもたちの意識と行動が確実に変化してきたことを実感できます。

共栄小の残菜の割合の比較

	令和6年度	令和7年度
6月	11.9%	6.5%
7月	12.5%	5.3%
9月	14.6%	7.9%
10月	11.6%	3.1%

4月から計画的に全学級で栄養教諭と連携して、発達段階に合った食育の授業を行ってきました。子どもたちに給食時のマナーや食べ物の大切さ、栄養バランスなどを学んできました。また、9・10月には採血をせずに約30秒で推定野菜摂取量が測定できるベジチェックという機器を使って一人一人の野菜の摂取量を測定する取組を行いました。これにより、野菜が苦手な子も、少しでも給食の野菜を食べようという意識や給食だけでなく家庭でも野菜を意図的に食べようという意識を高めることができました。

さらには、保護者や学校運営協議会の皆様にも、この取組にご理解いただくため、給食試食会や給食参観を実施しました。多治見市の給食がどのように作られ、どのようなことに気を付けているかを知っていただいたり、実際に子どもたちがどのように給食を食べているかを見ていただいたりしました。保護者や地域の方々にも、給食の大切さを理解してもらうとともに、家庭での食事の大切さについて改めて考えてもらう機会になりました。

残菜を減らすことは、昨今、話題になっているフードロスにもつながります。食べ物を無駄に捨てることなく、地球にも優しい行動をしていく心にもつながっていきます。こうした取組を通じて、子どもたちの食に対する意識が大きく変わり、学校全体で「残菜を減らしていこう」「苦手なものも少しがんばろう」という意識が浸透しつつあります。



1年生での食育の授業の様子



ベジチェックでの測定の様子



給食試食会の様子